

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」の理念を管理者職員一同心に刻み入居者さまの安心、安全を念頭に常に寄り添い心の通う関係の構築に努めている。	併設の小規模多機能施設からの理念を引き継ぎ、管理者、職員は理念を念頭に日々の支援に当たっている。実践の中で理念は活かされミーティングや事例検討会の場でも職員からは「寄り添う」の言葉も良く発せられ浸透されている。コロナ禍で家族との面談が厳しい中、家族のように「寄り添う」ことで利用者、家族の安心に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の季節行事やイベントなどに参加し交流を図っている。今年度は感染拡大防止から地域行事はすべて中止となっている。	コロナ禍で地域の行事はほとんど中止となり参加する機会がない中、散歩中に近隣住民から声をかけてもらったり、野菜を届けてもらったり日々の中で良い関係が築かれている。コロナ禍で中止されていた事業所主体で行なわれるお茶の間サロン「笑い合い」は9月より再開され、地域の方、利用者が触れ合う場として相互に楽しみとなっている。また管理者は長年婦人会、老人会で認知症、介護、日常生活、体操等の講師を担い会を盛り上げている。町内会にも入会し、総会に参加する等地域と一体となり地域と共に成長していこうと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人クラブや婦人会等の依頼を受け出前教室や健康教室に出向き認知症の理解や介護方法の相談等を受けている。最近では時節柄電話での相談が増えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。行政、地域包括、区長、民生委員の参加を得てサービスの実践内容及び報告、参加者の意見要望、行政への質問等意見交換を活かしサービスの資質向上に努めている。	運営推進会議は併設の小規模多機能施設とともに2ヶ月に一度開催されている。民生委員2名、区長、市職員、包括職員、利用者、家族と多方面から多数の出席者がある。地域から関心を持たれている事業所であり、それぞれの立場から意見や質問等が活発に出され話し合いが行われている。例えば民生委員からコロナワクチン接種の議題が出されるなど、検討し職員間でも話し合い決定事項は速やかに運営に反映されるよう努めている。事業所からは現状、運営状況の報告、決定事項の進捗状況の報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例や問題、相談など細やかに連絡を取り解決に向け助言を得、協力関係の構築に努めている。	毎回運営推進会議には市職員、包括職員が出席している。開設当初から利用者の相談に乗ってもらったり困った事があると相談している。市職員からも抱え込まず相談に来るよう勧められており、顔が見える相談しやすい関係性は築かれている。事業所も地域住民から介護について相談があると市に繋げる等、相互に協力し問題解決に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設け前年の実践状況を踏まえ目標達成に向けた具体的な取り組みを行い実践中である。	虐待の防止と共に身体拘束については、事業所として大きな課題と認識し取り組んでいる。適正化委員会が中心となりスピーチロックについて勉強会、アンケートを実施し、習熟、振り返りの機会を設けるなど日々の支援に活かしている。看護師の指導による症状毎の対応の仕方など、実践に活用できる内容にも取り組んでいる。前回のステップアップ項目であったが、真摯に取り組む姿勢は評価したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について今年度はまだ研修等での学ぶ機会はなかったが管理者を中心に虐待防止マニュアルを参考にミーティング等で確認、防止に努めている。	「何気ない言葉かけが虐待に当たる」わかっ ていてもつい、わからずに使っている支援 の中で気になる言葉かけが見られた時は職員 間でも注意し合うようにしている。マニュアル の整備、マニュアルを活用し話し合いの場を 設けることで、確認、防止に努めている。骨 折後の利用者に安全優先で3点柵使用を運 営推進会議で提議し、家族の了解も得て実 施したが職員の適切な配慮で1週間で外され た事もある。玄関に限らず日中は施錠はせ ず、利用者は思い思いに行動しており、職員 の目配り気配りで利用者の安全を確保して いる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	支援事業や権利擁護、成年後見制度等機 会があれば研修会に参加し個々の理解と活 用に繋がる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書の内容に沿っ て説明と理解を得、締結している。不明な点 や質問などについて丁寧に説明、納得を得 られる様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	前半は利用者宅を訪問し現況報告や意見 交換、要望や相談を行うことが出来たが後 半はコロナ禍になり電話での報告や相談等 になっている。	コロナ禍で家族の面会も制限され始めてか ら、管理者は月2回自宅に訪問し近況の報告 や意見、要望を聞く機会を設けている。遠方 の家族には電話連絡し家族とのコミュニケー ションを図り、意見を出しやすいようにしてい る。出された意見は時間を置かず検討し運営 に反映されるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間の事業所運営状況等の報告会議や個人面談を開催し職員からの意見や提案の機会を設け反映に活かしえている。	年2回自己評価表を基に面談の機会を設けており、毎日の申し送り時や気が付いた時に職員は活発に意見を出している。内容によっては速やかに運営に反映されている。職員は経営会議にも参加し状況も把握し、洗濯代や食費についても意見が出され取り入れられるなど、経営にも一部関わることで職員のモチベーションに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年3回程度の個人面談を実施。職員のメンタルヘルスに取り組んでいる。不定期に自己評価も実施。今年度は全職員を対象に健康経営の取り組みとして「健康習慣アンケート」を実施。結果を踏まえ環境整備に活かす様努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍の影響で外部研修への参加はほぼ実施できず内部での勉強会を開催。資格取得の支援援助、認知症実践者研修受講等の機会の確保に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍の影響で交流や活動の機会はなかった。適時管理者が電話での意見交換などでネットワークの維持に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との事前面接で今、困っている事や心配事、今後の暮らしの希望などに傾聴し安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との事前面接では入所に辺りこれまでの経緯や望む暮らしへの要望など情報収集し今後の生活に活かせる様関係づくりに努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階ですべての対応を見極めることは困難であるがその時々の変化や状況を勘案し検討必要なサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」の理念をモットーに共に支え合う関係の構築に努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、適時日常の暮らしを伝え家族との関係構築に努めている。本人と家族の絆が良好に保ちともに生き支え合う関係を築いている。	コロナ禍で限られた環境での面会ではあるが、感染症対策を行い窓越しでの面会、テレビ電話の活用と家族もできるだけ利用者との関わりを持とうと努めている。事業所としてもあえて家族に本人の使用する物の買い物を依頼し、本人との面会の機会を作り関わりを持ってもらえるよう配慮している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来苑して頂ける居場所を施設内に設け家族や友人、馴染みの地域の方との交流の場を提供し関係構築の支援に努めている。今年度は感染防止対策の一環で見送っている。	窓越しではあるが、知人が面会に訪れたり、家族に確認後友人からの電話の取次ぎや、利用者と一緒に自宅に郵便物を取りに出向くこともある。コロナ禍で中止しているが以前は希望があれば馴染みの美容院への送迎など、出来る範囲で支援していた。今後は少しずつ事業所の開放を再開し、気軽に家族、友人、知人、馴染みの方が立ち寄り利用者と楽しい時間が過ごせるようにしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を共に築き合い一人ひとりの個性を尊重し互いを認め合い支え合う関係の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても本人家族との関係性を維持し必要に応じて相談支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に得た情報を「私の姿と気持シート」に記載し暮らし方の意向や希望の把握に活かしている。適時居担が主に追加記載し情報共有している。	入居前に自宅訪問して、ケースプロフィールに利用者の情報を詳細に確認している。入居後に居室担当者が情報を参考に「私の姿と気持シート」を色んな視点から見えてくる利用者の思いを記載している。また日々の生活の関わりの中からの気づきや思い、行動や表情を汲み取り24時間シートに記録して、全職員で共有している。		
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族からこれまでの生活歴や環境等情報を得、本人らしい生活スタイルに反映出来る様努めている。	入居前に本人、家族から生活歴や馴染みの暮らし方、日頃の習慣、趣味や得意なこと、地域での関わりなど詳細に確認している。また前任のケアマネジャーや事業所からも情報を得ながら、生活環境の変化に配慮しながら寄り添うことで、入居後も本人らしい生活が送れるように支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し現有能力の維持に繋げている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居担制を取り入れている。各課題の検討、定期的なモニタリングを開催しサービス計画に反映している。困難事項等は家族の意見を聞き取り計画に反映し作成している。	本人、家族の意向や課題、アセスメントの情報を基に、ケアマネジャーが中心となり居宅担当者と介護計画を作成している。定期的にモニタリングを実施し、日々のミーティングの意見を参考に介護計画の見直しや課題評価を行ない担当者会議を開催し、本人、家族にも説明して現状に即した介護計画を作成している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を業務日誌に記載、情報共有に活かしている。日々の申し送り事項等は専用のノートに記載気づきやケアの見直し事項として記録し計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種申請書類の記入、提出代行、生活用品の購入などをおこなっている。理美容の希望で馴染みの店への送迎など家族の代行支援としても柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域行事やイベントの中止が相次いだ。事業所が主催する地域のお茶の間サロン「笑い和い」を月2回開催し楽しむ機会に繋げることが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医があり定期訪問診療や受診同行等医療情報の提供を行っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重しているが、入居と同時に訪問診療に移行することも可能である。主治医との連携や必要に応じての情報交換も密に行われている。看護師も常駐しており健康管理や専門医への受診の助言など、適切な医療が受けられるよう支援している。診察結果や健康状態については、随時家族にも報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員、看護職員は毎日合同でミーティングを実施し情報の共有を図り利用者の健康管理に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療情報提供や退院時カンファレンスを実施し各職種間の連携を図る等関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の説明時に終末期の意向調査を行っている。施設での「看取り」の希望があり支援体制づくりに取り組んでいる。	入居契約時に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、事業所として出来ること、出来ないことの説明をしている。看取りケアの経験もあり、全職員で情報を共有し、本人、家族に寄り添い、主治医、看護師、職員と連携を図りながら看取りケアをしていく方針で支援体制も整っている。また状態に応じては病院や施設入所への推進支援も行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生時の対応マニュアルの見直しを行い看護師を中心に具体的に見える化し実践に活かせる様努めている。	急変や事故発生時マニュアルも整備され、ホールの見える場所に設置している。看護師からも勉強会を開催してもらい、感染症、緊急時、事故発生時の訓練を定期的の実施することで全職員が実践力を身につけている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え年2回職員全員避難訓練等消防立ち合いで実施。隣接する小規模多機能と合同での避難誘導訓練も行っている。地域の消防団との合同訓練はコロナ禍で中止となっている。	年2回消防署立ち会いの下、避難訓練を実施している。マニュアルの作成や避難場所や避難経路の確認は全職員が周知している。隣接する小規模多機能と合同訓練の実施や協力体制は整っている。消防署立ち会いの下でのAEDの訓練も行っている。災害時に備えての非常食や備品の備蓄も整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性と人格を尊重し親しみの持てる言葉かけに留意している。	利用者一人ひとりに合った言葉かけに配慮し、寄り添う気持で対応している。プライバシー保護の研修会や勉強会は定期的に行なわれ全職員が周知している。スピーチロックのアンケートを実施し、振り返ることで、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を身につけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「私の姿と気持ちシート」を活用し本人の思いや希望を見出し自己決定に繋げている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルを重視し本人のペースで過ごされている。その日の気分や体調に合わせ身体機能の維持、気分転換を図るなどの支援を提供している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて身だしなみやおしゃれ等の支援を実践している。外出時の洋服選びや誕生会のお化粧を楽しまれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや食形態などに考慮し美味しく食べて頂ける様工夫し提供している。野菜を洗ったり皮を剥いて頂き職員と一緒に準備や盛り付け、後片付けを行っている。	食事が楽しく美味しく食べられように、一人ひとりの意欲や力を活かしながら共に食事工程を行なっている。季節食や行事食を企画して楽しい食事会を開催している。おやつの中には利用者とともに団子や白玉、ぼた餅など、その時々合ったおやつを作り美味しく食べている。また、園庭の畑で収穫した野菜や近所から頂いた野菜で季節感を盛り込んだ食事を醸し出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量のチェックを記載し一人ひとりの状態を勘案し栄養摂取の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは支援の日課となっている。一人ひとりのケアに応じた支援を実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し夜間オムツ対応の方も日中はリハパン、トイレ誘導し自立に向けた取り組みを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターン、習慣を理解して自立に向けた排泄を支援している。排便のコントロールは排便チェック表を活用して把握している。排泄用品なども家族に負担がかからないように検討し対応している。さりげない声かけや、細やかな支援と羞恥心への配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向で排便コントロールが必要な為排便チェックを記録し内服管理、水分量や食事量を参考に個々の状況に沿って便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を予定しているが体調や気分により変更している。希望する時間帯は調整し午後入浴も可能としている。	入浴は週3回で午前中を基本としている。希望があれば時間帯の変更には柔軟に対応している。浴室は広く、室温調節、床暖房や補助具も整備され、安全にゆったりと入浴できるようになっている。状態の低下に伴い機械浴槽対応も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ自由に居室で休息したりホールでウトウトされ過ごされるなど状況に応じ支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報を収集し看護師が配薬管理している。内服チェック表でダブルチェック誤薬を防いでいる。毎朝のバイタルチェックで病変の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から趣味や特技などの情報を収集し楽しみを引き出す支援に取り組んでいる。踊りが好きな方や家事を好む方一人ひとりの楽しみごとの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍で積極的な外出は控えましたが季節ごとの花見ドライブや公園などで散策を楽しまれています。天気の良い日には園庭に出てお茶会を開き気分転換を図っている。	日常的に屋外に出かけ、外の空気に触れることで気分転換を計っている。施設周辺の環境も良く日常的に散歩に出かけたり、園庭のテラスでのお茶会や季節のドライブなど、行事委員が様々な視点から楽しめるように企画している。外出時には写真を撮りホールに飾ったり、広報に載せて家族にも配布している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難でありご家族からお小遣いを預かり日用品などの購入支援を行っている。ご本人の希望で嗜好品や衣類購入時は同行し支払いをして頂く事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会がままならない時節柄家族からの電話が多く都度対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓から入る日差しが明るく心地よさを演出している。中央にアイランドキッチンを設置し利用者と調理の準備をしながらコミュニケーションの場となっている。「ふれ愛コーナー」はご家族地域住民との交流の場として活用している。	共有空間は天井が高く窓から入る日差しが明るく、木の温もりを全身に浴びて開放的な空間となっている。中央にアイランドキッチンを設置し利用者と調理の準備を行ないながら交流の場となっている。玄関直ぐの「ふれ愛コーナー」は家族や地域住民の交流の場として開放されている。共有空間は室温調整、空気清浄機を設置して感染予防にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールの共有スペースでテレビ鑑賞、カラオケ、レクゲームなどに興じている。一人ひとりの身体状況に合わせ席替えをし居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室ベット、チェスト、クローゼットを設置馴染みの家具調度品も持ち込んで頂いている。空気清浄機を設置し環境にも留意している。ご家族ともゆったり過ごして頂ける広さで椅子も各室用意している。	全室ベッド、チェスト、クローゼットは設えてあり、居室の広さは快適でその人らしい居室作りを行ない、居心地良い空間となっている。居室の入り口には花の絵と名前を書いた表札を貼り、自分の部屋であることがわかるように配慮したり、各部屋には空気清浄機も設置され環境にも留意して安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全個室である。キッチンや食堂、共有スペースの配置に工夫し天井からの自然光を活かした建築である。和風の雰囲気の特徴に落ち着いた環境の中での生活を重視している。		